

マイナンバー制度への不安

大学生 高橋 千秋21 (千葉県松戸市)

12けたからなる「マイナンバー」を国民一人一人に割り振り、情報をその番号によって管理するマイナンバーの利用範囲を拡大するための改正法が今月3日、成立した。個人の資産を把握

数字で情報を管理すること自体に異論はない。大学生である私も、学籍番号という数字で個人情報把握されているからだ。しかし、割り振られた番号を通して「監視されている」と感じることもある。そしてそれは我々を直接的には知らない人間にも可能なのだ。知らないところで、知らない人間に、自分の情報を知られ、見られている。私は時々、この状態を恐ろしく思うことがある。

今後さまざまな情報を一元化するためにデジタル化されていくのだろうかと思うと、処理しやすくなるのだろうか、ディストピア(反理想郷)的利用がされないことを願うばかりだ。

お酒飲めるから大人と思わない

大学生 高橋 美波 (埼玉県 21)

飲酒や喫煙ができる年齢を18歳以上に引き下げることは反対だ。18歳と20歳はたった2歳の違いだが、飲酒や喫煙は身体に大きな悪影響をもたらすこともあるのだから、早める必要はない。

また、飲酒と喫煙は大人の象徴であるように捉える向きもあるようだ。お酒を飲むことやタバコを吸うことが、大人になった印なのだろうか。様々な場面で

お酒を飲む機会があるが、お酒を飲めるようになったからといって大人になれたとは思わない。私が大人になれたと思えるのは、親から自立して仕事安定したときや、他人の意見を聞き入れたり自分の考えを述べたりすることができるようになった時だと思う。

飲酒・喫煙人口が増えれば税収は増えるかもしれない。だが、年齢を引き下げても税収増が必要なのか。きちんと議論する必要がある。

「オワハラ」で選択肢奪わないで

大学生 小澤 華月 (茨城県 21)

最近の就職活動で、内定者に対する「オワハラ」が問題になっている。企業側が内定を出す代わりに、学生が他社への活動の辞退・終了を迫られる「就職活動終われハラスメント」のことだ。

企業は内定を出すことで、法的に学生と労働契約を結んだことになる。契約が成立している以上、企業側からみれば、内定を出した学生に他社への就職活動をしてほしくないようにお願いするのは、自然なことなのだろう。

しかし、私はそうは思えない。就職活動を来年に控えているが、

もし、自分が「オワハラ」を受けられるかもしれないと思うと、不安は高まるばかりだ。もし、自分の意思ではなく、企業側の都合で活動を終えなければならぬ状況になれば、企業研究や自己分析にたくさん時間をかけて準備してきた自分の努力が、報われないことになってしまう。

私は、就職活動で自分の力を試したい。それが自信へとつながると思う。だから、就職する企業を選ぶときには、いろいろな選択肢があった方がいい。企業側はどうか、努力してきたことを十分に発揮する機会を奪わないでいただきたい。

朝日新聞(2015)
お酒飲めるから大人と思わない(10月14日朝刊)

毎日新聞(2015) マイナンバー制度への不安 9月22日朝刊

朝日新聞(2015)
「オワハラ」で選択肢奪わないで(10月24日朝刊)